

「段階的な老朽化対策」のアウトプット（イメージ）

項目名	項目数	内容
1. 病床について	6項目	<ul style="list-style-type: none"> ① 病床の位置（高さ） ② 病床のタイプ ③ 患者プライバシーの確保 ④ 感染症対策のための部屋 ⑤ 感染状況に応じた病棟フロアのゾーニング ⑥ 車いす保管場所の確保
2. 病床以外のスペースについて	9項目	<ul style="list-style-type: none"> ① <ul style="list-style-type: none"> - 1 リハビリ室 - 2 ADL 訓練室 - 3 デイスペース ② <ul style="list-style-type: none"> - 1 面会室 - 2 患者家族同士の交流スペース - 3 再入院患者への対応 - 4 再入院患者受入れのための外来窓口 ③ 外気浴や散歩などに必要なスペース ④ スタッフ環境の整備
3. 設備について	2項目	<ul style="list-style-type: none"> ① 不測の事態への備え ② 施設外への脱出機能
4. 東棟の活用について	1項目	東棟の活用策

項目	レベル3	レベル2	レベル1
1. 病床について			
①病床の位置 (高さ)	○西棟・東棟を嵩上げ ○1Fに病床を設置	○西棟・東棟を嵩上げしない ○2F以上に病床を設置	○西棟を嵩上げ ○西棟1Fに病床を設置 ○東棟は嵩上げしない ○東棟2Fに病床を設置 (西棟と東棟に段差があり、東棟の活用が困難)
②病床のタイプ	○3タイプの病床(大部屋・中部屋・個室)を設置 ○短期・中期入院用の専用病床を設置	○3タイプの病床(大部屋・中部屋・個室)を設置 ○短期・中期入院用の病床は長期入院用と兼用	○大部屋方式 ○患者の特性に応じて仕切り板を設置
③患者プライバシーの確保	○男女別病床を設置	○男女別病床を運用上で確保	○現状維持(男女混合の病床)
④感染症対策のための部屋	○陰圧室4つ設置(専用の陰圧室が2つ、言語聴覚療法室と兼用の陰圧室を2つ) ○可変式感染隔離ゾーンを組み合わせる	○陰圧室を4つ設置(専用の陰圧室が2つ、言語聴覚療法室と兼用の陰圧室を2つ)	○陰圧室を3つ設置(専用の陰圧室が1つ、言語聴覚療法室と兼用の陰圧室を2つ)
⑤感染状況に応じた病棟フロアのゾーニング	○感染者数に応じて感染隔離ゾーンを設置(感染隔離ゾーンを自在に変更可能)	○感染隔離ゾーンを設置(感染隔離ゾーンを固定)	同左
⑥車いす保管場所の確保	○個々の病床サイドに保管	同左	○車いすをまとめて保管

項目	レベル3	レベル2	レベル1
2. 病床以外のスペースについて			
①-1 リハビリ室	○PT・OT・STそれぞれのリハビリ室を設置	○PT・OTの大部屋とSTの小部屋を設置 ○大部屋は区切り可能とする	○大部屋のリハビリ室設置 ○大部屋は区割りして使用
①-2 ADL訓練室	○ADL訓練のための専用の部屋を設置	○リハビリ室にADL訓練が可能な設備を設置	同左
①-3 ディスプレイスペース	○専用部屋を各階に設置 ○イベント等にも使用できる多目的ルームとして活用	○病床に併設させる形でスペースを確保	○ベッドサイドに機動的にスペースを確保
②-1 面会室	○患者と家族が長時間くつろげる面会室を設置 ○一緒に宿泊も可能とする	○患者と家族が長時間くつろげる面会室を設置	○患者と家族との面会室を設置
②-2 患者家族同士の交流スペース	○患者家族同士が自由に交流できる専用の部屋を設置 ○外部から直接入室可能	○職員が使用する会議室を交流スペースとして兼用	○待合室を交流スペースとして兼用
②-3 再入院患者への対応	○療護センターを退院後に再び入院する患者向けに専用の病床・リハビリ室を設置	同左 (ただし、リハビリ室は長期入院患者と兼用)	○再入院患者は長期入院患者向け病床・リハビリ室を利用
②-4 再入院患者受入れのための外来窓口	○再入院患者の体の状態を把握するための検査や診察、車いす・装具の調整などを行う専用の部屋を設置	○専用の部屋ではなく、他のスペースと兼用	--- (設置しない)

項目	レベル3	レベル2	レベル1
③外気浴や散歩などに必要なスペース	○屋上に外気浴・散歩のための専用スペースを確保 ○外出訓練のためのVRルームを設置	○屋上に外気浴・散歩のための専用スペースを確保	○駐車場の緑化エリアを外気浴や散歩スペースとして活用
④スタッフ環境の整備	○研修スペースの確保やe-learningの導入など、職員のための研修を充実 ○WEB会議等リモート環境を整備	同左	現状維持
3. 設備について			
①不測の事態への備え	○災害時に通常と変わらない病院機能を3日以上維持できる電源を確保	○災害時に医療機器や空調設備を3日以上維持できる電源を確保	現状維持
②施設外への脱出機能	○2F以上に病床を設置する場合に、外部に安全かつ迅速に避難できるスロープを設置	○災害時でも外部に脱出せずに済む施設とすることを基本としつつ、外部への避難経路を確保	同左
4. 東棟の活用について			
東棟の活用策	○嵩上げた東棟1Fを改修し、病棟・リハビリ室等患者スペースとして利用 ○空調などの設備更新や既存設備の地上化を実施	○東棟2F・3Fを改修し、病棟・リハビリ室等患者スペースとして利用 ○空調などの設備更新や既存設備の地上化を実施	○建物改修などはせず、1Fを病棟・リハビリ室等患者スペースとして利用